



# サマースクールin美ヶ原

## 2014. 8.2<sup>Sat</sup>-3<sup>Sun</sup> SUMMER SCHOOL 2014



### 第一日目

日本産科婦人科学会サマースクールが長野県松本市で行われました。今年のサマースクールの特徴は①例年、学生と初期研修医が一緒であった実技プログラムを、レベルの相違を踏まえて分けたこと、②2日目プログラムで全国から医局長レベルの先生にお越しいただき、参加者と対話の場を設けたこと、③未来ビジョン委員会が新編作成された産婦人科新プロモーションサイトDVDの初披露を行ったことです。

第一日目は婦人科腫瘍婦人科内視鏡、産科超音波検査に関する実習をメインにプログラムが進行しました。婦人科腫瘍はPC上で自由に病理組織標本を観察できるバーチャルスライドシステムを利用したQ&A方式の診断実習、婦人科内視鏡実習は鉗子の基本的動作から縫合・結紮までのトレーニング、産科超音波では胎児計測や胎児異常の超音波実機での検出、3次元エコーでの胎児描出実習などを行いました。参加者の皆さんは産婦人科臨床現場の一端をバーチャルに体験していただけたことと思

います。プログラム自体は昨年を踏襲した形ですがやはり学生さんにはより入り込みやすい内容となっており好評をいただきました。

### 第二日目

二日目はほぼ時間通りに参加者皆が勢ぞろいし、恒例の早朝の集合写真を撮影することができました。未来ビジョン委員会で作成された産婦人科新プロモーションサイトの紹介を平松未来ビジョン委員会委員長にいただいた後で、会場参加者の目を見張る形で実際に映像閲覧されていました。ついで、参加者と視線が近い若手医師による特別企画です。産婦人科専門医取得後の若手医師たちの次のステップであるサブスペシャリティ領域の紹介や、その道

今年初めて企画された「医局長と語ろう」が行われました。前半は地域に関係なく、後半は地域の大学別小グループを組み、産婦人科医としての展望に関して、各地の医局長レベルの先生方と参加者が活発に討論する姿が見られました。今回の産婦人科サマースクールも大勢の学生・研修医の皆さんと企画者に参加いただき大成功に終わりました。今回、参加された皆様が1人でも多く産婦人科医に将来なっていたら、一緒に我が国の産婦人科医療を担っていただける日が来ることを心より夢見ております。

ここで紹介しているものは抜粋です。全文は日産婦HP内「Reason for your choice」に掲載中です。ぜひご覧ください！

### 参加者の声

初日、大きな会場に少し緊張しましたが、壇上で講演をされる先生方のお話はとてもおもしろく徐々に緊張感がほぐれていきました。続いてグループに分かれての実習です。胎児超音波や腹腔鏡、婦人科悪性腫瘍の病理等、特に腹腔鏡は普段の研修ではなかなか体験できないものでとても興味深かったです。夜は立食パーティでもおいしい料理ばかりが並び、いろいろな病院・大学からきている方々とお話しすることができました。またその後ホテルのラウンジでは、アドバンスコースの実習がありました。研修中にはみることができなかった吸引・鉗子分娩の体験ができ、教科書を読むだけではわからない手技を身近に感じることができました。翌日は講演会が主で、特に男女に分かれての先輩ドクターのお話はとてもおもしろかったです。産婦人科医の日常や勤務状況、女性の医師であれば誰もが心配に思う結婚・出産まで、包み隠さずお話いただきました。2日間という短い時間でしたが、とても密度の濃い時間が過ごせました。  
【杏林大学医学部付属病院 研修医2年目 北見 菜々恵】

サマースクールでは講義は導入程度で、実習メインであったのが非常にうれしかったです。エコーセミナーではブースごとにポイントを絞ったエコーの知識と技術を学ぶことができました。よく「エコーは非侵襲的だから研修医でも積極的にやりなさい」と言われるものの、やはりそうそう長時間患者さんにエコーを当てることができず、見たいものを見つけれないまま中途半端な測定で終わることも多くありました。模型を使っているためそういった心配をせずに実習できたことはよい経験でした。また、各ブースに複数のインストラクターの先生方がいらしたため、気軽に質問をできたのも他の体験セミナーにはない良さだったと思います。どのセミナーも、研修医が日々の臨床の中でできそうできない基礎的なことと各分野の最先端の機器を体験できる、という企画がとても興味を掻き立て、もっとできるようになりたい、もっと知りたいと思わせるものでした。様々な機器に触れ、同期や若手の先生方や医局長の先生方に悩みや不安を話したことで、身近に感じることができ、一步一步成長していきたいと思えるようになったと思います。  
【九州大学病院 初期研修医2年目 坂田 幸世】

1日目は、産科エコー実習、内視鏡dry box講習、腫瘍レクチャーと数人ずつグループに分かれて行いました。全体を通して、周囲の学生の和気あいあいとしながらも、わからないことは調べあい、質問しあい、教えあう熱い学習姿勢が印象的で、皆で楽しく勉強することができました。個人的には妊孕性温存手術の子宮頸部摘出術の話が実際出産の時にどんな合併症をもたらすのかなどを考えるきっかけとなっておもしろかったです。2日目は若手産婦人科医の先生の笑いあり、感動ありの話聞き楽しい時間を過ごすことができました。若手医師男性企画では、先生方の自由でいきいきと楽しそうなお姿が印象的で自分も将来はこんな風になり生き生きと仕事をしてみたい！という気持ちになりました。医局長と語ろう！企画では同じグループになった人たちと各大学の医局制度やキャリアについて話を聞くことができ驚きました。学生から入局しているという人もいて自分にとっては未知の世界の話を聞くことができ驚きました。楽しい経験もでき、自分の未熟な考えを反省するきっかけにもなり、同年代や先生方に刺激をうけ、自分の将来を思い描くこともできた、そんな会になりました。  
【名古屋大学 医学部医学科6年 中村 拓斗】



## 研修医の声

研修医の方々に、産婦人科を選んだ理由や、産婦人科に寄せる夢を語って頂きました。

もともと内科系も外科系にも興味があり、周産期医療だけでなく腫瘍や不妊治療など幅広い分野学べる産婦人科に魅力を感じていました。

また学生時代に実習で出産に立ち会う機会があり感動し、命の誕生という素敵な時間を共有できる産婦人科の道に進もうと思うようになりました。

実際に産婦人科で3か月研修し、数多くの分娩を経験させていただくことができ、どのお産も赤ちゃんを抱く母親の姿、そばで寄り添っている父親の姿は忘れられません。

母親をサポートしながら胎内の新しい命を救う医療は、大変やりがいのあること

新潟大学・明石 英彦

どの分野も学べば学ぶほど興味深く感じ、専門の研修が楽しみです。地域の産婦人科医療に貢献できるようにこれからも研鑽を積んでいきたいと思

医学部を受験する前から周産期に興味があり、大学卒業後は産婦人科医になろうと考えていました。地元で働くことを希望致しておりましたが、道外出身者である私の入学を認めて頂きましたので北海道で研修することに致しました。

初期研修も1年9か月が経過し、素晴らしい環境、先生方、コミディカルの方々に囲まれ、充実した日々を過ごしています。日々の研修では「どんなときでも自分はどうか判断し、どう行動するのかを考え、緊張して研修するように」との指導を頂いています。

多くのことを身に付け、役に立つような人間に

旭川医科大学病院・村上 幸治

